

# 病害動物学分野

## 論文

### A 欧文

#### A-a

1. Oo SZM, Thaug S, Maung YNM, Aye KM, Aung ZZ, Thu HM, Thant KZ, Minakawa N. Effectiveness of a novel long-lasting pyriproxyfen larvicide (SumiLarv®2MR) against Aedes mosquitoes in schools in Yangon, Myanmar. *Parasites & Vectors*, 11 (16), 2018 (IF: 3.225)
2. Sunahara T. Simulation Study of the Effects of Host Availability on Bite Rate of Aedes albopictus (Skuse) (Diptera: Culicidae) and Risk of Dengue Outbreaks in Non-Endemic Areas. *Japanese Journal of Infectious Diseases*, 71 (1), 2018, (IF: 1.273)
3. Behera SK, Moriok Y, Ikeda T, Doi T, Ratnam JV, Nonaka M, Tsuzuki A, Imai C, Kim Y, Hashizume M, Iwami S, Kruger P, Maharaj R, Sweijd N, Minakawa N. Malaria incidences in South Africa linked to a climate mode in southwestern Indian Ocean. *Environmental Development*, 27,2018 (IF: 2.344)
4. Tamari N, Minakawa N, Sonye GO, Awuor B, Kongere JO, Munga S, Larson P. Antimalarial bednet of children disappears when shared by three or more people in a high transmission setting of western Kenya. *Parasitology*. 10: 1-9. 2018. (IF:2.511)
5. Iwashita H, Higa Y, Futami K, Lutiali PA, Njenga SM, Nabeshima T, Minakawa N. Mosquito arbovirus survey in selected areas of Kenya: detection of insect-specific virus. *Tropical Medicine and Health*. 46: 19. 2018. (IF:None)
6. Imanishi N, Higa Y, Teng HJ, Sunahara T, Minakawa N. Identification of three distinct groups of Anopheles lindesay in Japan by morphological and genetic analyses. *Japanese Journal of Infectious Diseases*. 71: 427-435. 2018. (IF:1.014)
7. Baba YG, Tanikawa A, Takada MB, Futami K. Dead or alive? Sexual conflict and lethal copulatory interactions in long-jawed Tetragnatha spiders. *Behavioral Ecology*. 29: 6. 2018. (IF: 3.347)
8. Suzuki S, Futami K. Predatory risk increased due to egg-brooding in Armadillidium vulgare (Isopoda: Onischidea). *Ethology*. 124: 256-259. 2018. (IF: 1.697)

### B 邦文

#### B-a

1. 角田隆, 川島充博. 水に沈んだ状態でのニホンヤマビルの生存期間. *環動昆* 29(1): 13-15. 2018. (IFなし)

#### B-b

1. 松村洋子, ソジョロゲ ラーバン, 丸山宗利, 二見恭子: ケニア共和国へ愛しの虫を追いかけて. *昆虫 (ニューシリーズ)*. 21: 2. 2018. (IF: None)

## 学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
3	0	8	3	5	14

## 社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
皆川 昇・教授	幹事	日本衛生動物学会
皆川 昇・教授	運営委員	日本衛生動物学会・南日本支部
川田 均 ・准教授	南日本支部長	日本衛生動物学会
川田 均 ・准教授	殺虫剤研究班委員長	日本衛生動物学会
川田 均 ・准教授	理事・評議員・編集委員	日本環境動物昆虫学会
川田 均 ・准教授	Japanese Regional Director	The Asian Society for Vector Ecology and Mosquito Control
川田 均 ・准教授	誘引吸血装置法による防蚊試験方法に関する国際標準化分科会委員長	日本化学繊維協会

川田 均 ・准教授	誘引吸血装置法による試験方法に関する国際標準化委員	日本化学繊維協会
砂原俊彦・助教	運営委員	日本衛生動物学会・南日本支部
砂原俊彦・助教	編集委員	日本熱帯医学会
角田 隆・助教	編集委員	日本衛生動物学会
角田 隆・助教	評議員	日本環境動物昆虫学会
二見恭子・助教	ICIPE 協会連絡委員	日本衛生動物学会
二見恭子・助教	庶務委員	日本衛生動物学会南日本支部
比嘉由紀子 ・助教	編集委員	日本衛生動物学会
比嘉由紀子 ・助教	自然史学会連合連絡委員	日本衛生動物学会
比嘉由紀子 ・助教	編集委員	都市有害生物管理学会

### 競争的資金獲得状況（共同研究を含む）

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
皆川 昇・教授	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）	分担	感染症研究国際展開戦略プログラム：ベトナムにおける感染症制御研究・開発プロジェクト
皆川 昇・教授	独立行政法人科学技術振興機構	代表	国際科学技術共同研究推進事業・地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム：「南部アフリカにおける気候予測モデルをもとにした感染症流行の早期警戒システムの構築」
皆川 昇・教授	独立行政法人科学技術振興機構	分担	科学研究費助成事業・国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））：熱帯アフリカのマラリア撲滅に向けたアルテミシニンとイベルメクチンによる集団投薬
川田 均 ・准教授	独立行政法人科学技術振興機構	分担	科学研究費助成事業・学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）（一般））：疾病媒介蚊の殺虫剤抵抗性獲得メカニズム解明
二見恭子・助教	独立行政法人科学技術振興機構	代表	科学研究費助成事業・学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）（一般））：熱帯熱マラリアのダイナミクス～多様性は媒介蚊の多様性によって維持される？
皆川 昇・教授	共同研究・住友化学株式会社	代表	殺虫剤デリバリー技術の野外評価系および半野外評価系の構築
川田 均 ・准教授	共同研究・アース株式会社	代表	蚊取り剤の開発研究
川田 均 ・准教授	共同研究・一般財団法人カケンテストセンター	代表	吸血昆虫の人工飼育方法の研究
川田 均 ・准教授	共同研究・学校法人北里研究所・アース株式会社	代表	感染症媒介蚊の防除方法の検討
川田 均 ・准教授	共同研究・アース株式会社	代表	忌避剤の蚊に及ぼす影響確認
砂原俊彦・助教	共同研究・一般社団法人産学技術協会	代表	感染症媒介蚊の幼虫発生源の物理的対策手法の評価

## 特 許

氏名・職	特 許 権 名 称	出願年月日	取得年月日	番号
川田均・准教授	防虫ブロック	2006年 7月5日	2013年 5月13日	登録番号： 特許第5277399号
川田均・准教授	害虫防除ネット、害虫防除方法及び害虫防除ネットの設置方法	2011年 1月27日	2012年8月	特 願 2011-15340 WO 2012/1023440
川田均・准教授	防虫性試験装置および防虫性試験方法	2016年 12月27日	2017年 9月1日	特許第6200126号

## その他

### 非常勤講師

氏名・職	職（担当科目）	関係機関名
皆川 昇・教授	非常勤講師（原虫寄生虫感染症コース）	大阪市立大学大学院医学研究科

### ○特筆すべき事項

#### ①皆川 昇・教授

国際緊急援助活動参加者として外務大臣感謝状授与（2018年1月30日）

コンゴ民主共和国における黄熱流行の際、JICA 感染症対策チームの一員として、コンゴ民主共和国の保健省幹部への助言、黄熱検査診断のための技術支援、ワクチン接種キャンペーンの事前準備支援等が評価された。

（参考情報）

コンゴ民主共和国における黄熱対応として国際緊急援助隊感染症対策チーム参加

2015年12月以降、アンゴラ、コンゴ民主共和国（以下、コンゴ（民））、ウガンダ等において黄熱が流行。

2016年3月以降、コンゴ（民）では、首都キンシャサ特別州を含む5州において感染が拡大。同年5月19日にWHOは公衆衛生上の深刻な事態であると発表、同年6月20日にはコンゴ（民）政府が黄熱流行を発表した。

<感染症対策チーム>

派遣期間：2016年7月19日～8月7日

派遣人数：17名

派遣国：コンゴ（民）

活動概要：コンゴ（民）保健省幹部への助言、黄熱検査診断のための技術支援、ワクチン接種キャンペーンの事前準備支援等を実施。

#### ②皆川 昇・教授

国際緊急援助隊派遣者による皇太子同妃殿下への御接見（2018年2月27日）

コンゴ民主共和国における黄熱流行の際の国際緊急援助隊感染症対策チーム参加者として御接見。

#### ③川田 均・准教授

日本化学繊維協会の防虫（蚊）製繊維製品に関するJIS開発委員としてJIS制定に貢献（2018年12月20日制定）

日本工業標準調査会（JISC）HP（<http://www.jisc.go.jp/>）にて「JIS L1950-1」「JIS L1950-2」閲覧可能。